

神木山報

shibokusanpou

一隅を照らそう
2月号

385号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



あるべきようは

住職 中島 有淳

冬のこの時期、朝は暗く寒い。
北国に比べたら笑われるが、私には寒い。
洗面して、お堂の照明をつけお灯りを点します。
正面、両脇陣、外陣と順に十ヶ所に灯すのです。
その頃には朝参りの人達が来山し、堂内に各々線香を点します。
六時。

『観音経』、『般若心経』、『自我偈』、『円頓章』、『ご真言……』と
朝勤行です。近頃は吐く息も白く見えるようになってきました。
約三十分の時間ですが、毎日同じようにお唱えして口は動いている
のですが、その間、色々な事を想ってしまっています。所謂、雑念、
妄念の類です。時にはスーッと気持ちよく唱えられる日もあり
ますが、大抵は思うようにはいきません。お灯明を眺めながら
あるべき勤行の内容を考えます。

よく仏教を語る時、懺悔・発心・精進といいますが、その
時「懺悔」の内容にこだわり、「発心」の内容にこだわり、「精
進」の内容にこだわり……と一向にまなならず、深まらずに埒が
無いのです。

挙げ句は「若い頃もつと勉強をしておけばよかった…」と今更
ながらに後悔します。

「あの灯明の明かりに仏さまの教えがある。いま燃えて光って
いる明りのゆらめきの瞬間に、ブッダの教えがある…」と知り、
気づいたその中味を探ろうとします。ろうそくは己を削って(燃
やして)周囲を照らし我々に役立ちます。しかもそれもやがて時
が経って燃え尽きて消える。そんな自明の事実に仏の教えを重ね
て照らし、意味を探るのです。

ローソクにとって火を灯したということは、人間がオギャーと
命が誕生した瞬間というわけです。

比叡山には伝教大師が灯したといわれる「不滅の法灯」が根本
中堂の正面に祀られています。伝教大師はその法灯をどんなお気
持ちで灯されたのか。その時、

『あきらけく後のほとけの御代までも 光伝えよ法の灯』
と詠じ、その灯は今日迄一度も消えることなく光輝いています。
それには永い間、役僧がなたね油を足しているからです。

『油断』なきよう努めているのです。

ろうそくは種類も多く、その用途によって使われ方も種々です。
人間に喩えればローソクの燃える時や場所は種々です。各々の
縁によって灯され、縁によってその場で光輝き、縁によって消え
ます。

何と私達の人生に似ていることでしょうか。

伝教大師の有名な『一隅を照らす』というお言葉もローソクを
眺めながら社会にあつて今、自分のポジションで役割を努めなが
ら、命を燃やそうと更に願うのです。

一隅を照らす



折りふしのはな

せり

「せりなすなごぎよう
はこべらほとけのざ
すずなすずしろ
これぞ七草」と

春の七草のひとつですが
日本原産で万葉集にも
詠まれているようです
せりのその香りとおいしさで
まるで身体中が
浄化されるような気がします (遊)



行事案内

◎節分会 二月三日 午後二時

◎毎月八日 午後二時
薬師如来祈禱会 観音経誦

◎毎月十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)

◎毎月十八日 午後二時
観音経誦法要(於・神木観音堂)

◎毎月二十八日 午後二時
不動明王護摩供修行

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよい時にはご一緒ください

募集！巡拝バスツアーのご案内(日帰り二日間)

川崎最古の霊場『準西国稲毛三十三所観音霊場』が、この春
十二年ぶりの午年ご開帳(四月十八日～五月二日)になります。
當山でも全三十五ヶ寺を巡るバスツアーを企画。ご参加下さい。

・日程 ①前半：四月二十二日(水)

②後半：四月二十四日(金)

・出発地 神木観音堂(二十八番札所)

・定員 二十名(申込順・最低催行人数あり)

・参加費 各日一万三千元(昼食付。御朱印・納経料別)

(一日参加可、詳細寺務所まで。パンフレット有)

あてがはず

○衆院が23日解散・27日告示・2月8日投票開票に。高市首相が決
断し、いくつもの意見が生じました。「中道」という新党も結成
され熱くなりそうです。大切な局面になり注視。

○世界情勢もトランプ米大統領の言いたい放題、やりたい放題で
やたらと混乱。モンスターのような振る舞いになす術は。

○社会経済が二分化、二極化の様相が増してきたように感じます。
弱肉強食の世界は社会の性格が粗野になります。もっと大切に生
きていきたいと願います。

○もう二月。月日の経つ早さに今更ながら驚きます。時は流れ、
人の姿も変わりました。でも、体調に良・不良があっても恙無く
平穏であることに感謝。

○春の息吹がそこかしこに。小さい事でも発見するととても楽し
いもので、心暖まります。